

## 「第2回県立高校の再編整備に関する意見を聴く会」の実施結果について

県立高校の再編整備の検討の参考とするため、下記のとおり県内5地域で意見を聴く会を開催し、小中高の各PTA代表、各公立高校の同窓会代表の出席者から意見を聞いた。平成19年8月～9月の実施に続いて、2回目の開催である。

### 1 日程・参加者等

地域	小豆	東かがわ・さぬき	高松	中讃	三豊・観音寺
日時	7月24日(木)	7月31日(木)	7月22日(火)	7月30日(水)	7月28日(月)
	18:00～20:00	19:00～21:00	19:00～21:00	19:00～21:00	19:00～21:00
会場	サンオリーブ	さぬき市公民館	社会福祉総合センター	丸亀競技場会議室	観音寺市民会館
	(小豆島町西村)	(さぬき市津田町)	(高松市番町)	(丸亀市金倉町)	(観音寺市坂本町)
参加者	18名	25名	43名	36名	27名
一般傍聴者	207名	7名	0名	4名	16名

### 2 再編整備に関する意見の概要

#### 小豆地域

- ・小規模校でもコストをかければハンディをかなり克服できると思う。
- ・検討会議報告書の中に、両校からの陳情書の内容を盛り込んでほしい。
- ・2校ならこうなり、1校ならこうなるという具体的な答えを示してほしい。
- ・検討に際しては、通学の便を1番に考えてほしい。
- ・小豆島には有望な企業があるし、コールセンター誘致の話もある。これらを支える人材を育成してほしい。
- ・島内の老人福祉施設への就職につながる福祉・看護のコースを作してほしい。
- ・豊島の住民にとっては、時間的・経済的な負担から考え、土庄高校はなくてはならないものである。

#### 東かがわ・さぬき地域

- ・今まで行った再編の評価を行い、公表してほしい。
- ・学校の魅力づくりができておらず、少子化に拍車をかけるなど悪循環を起こしている。
- ・職業学科においても、基礎学力をつけることが大切で、それにより進路の幅が広がる。
- ・いい高校が地域にあるにもかかわらず、多くの生徒が高松地域の学校を目指す。高松の定員を減らすのはいい。
- ・少子化で統廃合は避けては通れないと思うが、地域に根ざした高校を小規模なりに残していくことも考えてほしい。

## 高松地域

- ・定員が減っているのは学校に魅力がないからであり、定員の調整により一極集中の問題を解決するのは難しい。子どもたちの実際のニーズを踏まえて考えてほしい。
- ・近くの通学の便のいいところで、高度なレベルの教育を受ける機会を作してほしい。

## 中讃地域

- ・改革は大変苦労があるが、勇気を奮ってやるしかない。県教委が指導力をもってやっていただきたい。
- ・私学も含めて検討すべきである。
- ・中讃地域の南部の学校の充実が必要である。
- ・目指すべきものははっきりと持ち、社会で役立つ人間を育成することが必要であり、実業系の高校の充実が望まれる。
- ・10～20年先を見通して学校編成を考える必要がある。
- ・公立離れがすでに始まっている。早めに対応することが必要である。

## 三豊・観音寺地域

- ・職業学科の卒業生は、普通科と比べてより多くが地元に残り地域産業を支えている。
- ・生徒が少ない方がより細やかな教育ができ、教えやすいという面もある。
- ・高松地域への人の流れを作ってしまうのはよくない。地域ごとに本来の適正な学校数があるはずだ。
- ・中讃地域も含めて考えると、三観地域の生徒数の減少をある程度吸収できるのではないかな。
- ・地域や学校現場の意見を聴くだけで終わらせず、検討に反映させてほしい。
- ・何も知らないうちに決まってしまうというのではなく地域にもっと声をかけてほしい。
- ・香川県の農業生産額の約4割を三観地域で占めている。地元の農業高校は地域に支えられ、また地域に期待されている。
- ・地域独自の教育風土がある。また、学校は地域の活性化に大きな役割を担っている。一律の考え方で、再編を考えるのではなく、教育風土を大事にし、残していく視点で考えるべきである。